

# 令和8年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第三類（言語文化教育系）国語文化教育学プログラム〕

プログラムの名称（和文）	国語文化教育学プログラム
（英文）	Program in Japanese Language and Culture Education
1. 取得できる学位 学士（教育学）	
2. 概要 中等教育科学（国語）プログラムは、 ① “ことば”とその文化への深い理解 ②人間と社会及び両者の関係を“ことば”にそくして考えていく力 ③人間と社会及び両者の関係に働きかけてあらたな地平を切り開いていく力 ④中等教育ならびに中等「国語」教育実践がかかえるアクチュアルな課題に対応し、“ことば”をめぐる広くかつ深い知見を以て諸問題を考察、探求、解決していく力 の育成によって、中等教育及び生涯学習社会に貢献できる専門性と豊かな人間性を有する指導的人材を養成することをめざすプログラムである。 本プログラムは、中等教育教員の養成を主目的としているが、研究者養成とともに、一般企業・行政職・自治体文化施設等の公共団体などで教育専門職として活躍できる人材の輩出をも想定している。そこで、専門教育科目では、専門科目（「プログラム発展科目Ⅰ」）において広く国語文化とその教育の世界を学び、その上でそれぞれのキャリアデザインを策定させ、それに応じた授業科目を「専門選択科目」（「プログラム発展科目Ⅱ」）、「自由選択科目」（教職関係科目を含む）から履修できるようにし、さらに、卒業研究では学生一人一人の進路希望に応じた指導を行うこととしている。	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 国語文化教育学プログラムでは、専門職の中等教育国語科教員に必須の基礎知識、技能、態度の修得を通して、中等教育及び生涯学習社会の構築に貢献できる専門性と豊かな人間性を有する指導的人材を養成します。そのため、本プログラムでは、教養教育における幅広い教養とコミュニケーション能力、情報活用能力を基盤とした上で、以下の知識・能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。  (1) ことばとその文化の教育について、関連する学問分野の基礎的知識を身につけている。また、個々の学問分野の関わりに関心を持ち、それらが相互にどのように関連するかを理解することができる。 (2) 関連する個々の学問分野におけるより専門的な知識と研究方法を身につけるとともに、それらをもとにした深い思考や独創的な視点をもって、ことばとその文化の教育の実態や現象、歴史や問題について分析的に思考し、総合的に判断することができる。 (3) 中等教育の場におけることばとその文化の教育すなわち中等国語科教育の実践を計画し、指導を行うことができる。また、自己及び他者の教育実践をふりかえり、改善することができる。	

(4) ことばとその文化の教育，中等国語科教育のかかえるアクチュアルな課題を発見し，探究し，解決することができる。また，新たな中等国語科教育実践を創造することができる。

#### 4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国語文化教育学プログラムでは，プログラムが掲げる到達目標を実現させるために，次の方針のもとに教育課程を編成し，実践します。

教養教育における幅広い教養とコミュニケーション能力，情報活用能力を身につけるための授業科目の基盤の上に，専門教育科目の教育課程を次の履修科目群のもとに編成しています。

- 1) 専門基礎科目
- 2) 専門科目(発展科目I)
- 3) 専門科目(発展科目II)
- 4) 専門選択科目・自由選択科目
- 5) 卒業研究科目

これらの科目群は，次のように本プログラムの目的・目標と対応し，段階的に履修することで，身につけるべき知識・理解，分析・総合力，探究力を修得できます。

##### (1) ことばとその文化の教育に関する知識・理解

専門基礎科目の「国語文化基礎ゼミI」，「同II」と，発展科目Iの国語文化内容系科目(国語学・国文学・漢文学・書写書道の諸分野)及び国語文化実践系科目(国語科教育学の諸分野)を履修し，ことばとその文化の教育に関する基礎的知識を身につけるとともに，それらを相互に関連したものとして理解する。

##### (2) ことばとその文化の教育に関する分析力・総合力

発展科目II(国語文化内容系科目及び国語文化実践系科目)と，専門選択科目のうち教職関係科目(「教職入門」，「教育の思想と原理」他)を履修し，ことばとその文化の教育に関するより専門的な知識と，分析的に思考し総合的に判断する力を身につける。

##### (3) ことばとその文化の教育に関する反省的実践力

専門選択科目のうち教育実践系科目(「中・高等学校教育実習入門」「同観察」「教育実習指導B」「中・高等学校教育実習I」「同II」「教職実践演習」)を履修して，ことばとその文化の教育に関する反省的実践力を身につける。

##### (4) ことばとその文化及び教育に関する探究力・創造力

卒業研究科目(国語文化研究法＋卒業論文ゼミ＋卒業論文)を履修し，ことばとその文化の教育に関する探究力と創造力を身につける。

上記のように編成した教育課程では，講義，実技，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，体験型学習，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践します。

学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に，本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

#### 5. 開始時期・受入条件

プログラム開始（選択）時期は，1年次である。

6. 取得可能な資格

中学校教諭一種免許（国語），高等学校教諭一種免許（国語）

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は，別紙1の履修表を参照すること。（履修表を添付する。）

※授業内容は，各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に，学習の成果の評価項目ごとに，評価基準を示し，達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で，加重値を加味し算出した評価基準値に基づき，入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」，「優秀(Very Good)」，「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ，配属方法，時期等）

○位置づけ

卒業論文は，本プログラム履修の到達点である。「プログラムによる学習の成果」(前記)を活かし，自ら発見した中等「国語」の教育と内容にかかわる，あるいはまた生涯学習社会に対応した「ことば」とその文化の研究と教育などにかかわる，アクチュアルな課題を考察，探求することをつうじて本プログラムでの学習・研究の到達目標を達成すること，生涯にわたる研究課題を自ら開拓することを目的とする。

○配属方法

- 1) 5セメ（3年次前期）において，「国語文化研究法」（Ⅰ～Ⅱ＝教育系，Ⅲ～Ⅶ＝言語・文学系）から1科目を選択して履修する（なお，Ⅰ～Ⅶの全7科目から2つまでの履修を認める）。
- 2) 各「研究法」授業終了時に「研究テーマ」を策定する（2つの「研究法」科目を履修した者はこの時点で1「研究法」科目領域を確定する）。
- 3) 6～8セメは，5セメで履修した「研究法」科目（2つの「研究法」科目を履修した者はその内から選択確定した1「研究法」科目）の担当教員＝卒業論文指導教員の指導のもと，各自の研究テーマに即して研究を進める。

4) 8セメにおいて、10月の所定期日までに研究テーマを届け出て、翌年1月末日に卒業論文を提出する。

#### ○配属時期

5セメ終了時に配属を決定する。

1) 4セメ終了時（2年次2月）に、「研究法」科目の概要、履修方法について説明、指導を行う。

2) 5セメ終了時（3年次7月）に、「研究法」科目単位を履修した者に対して研究領域希望調査を実施し、配属を確定する。

### 10. 責任体制

#### (1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

本プログラムは、主として教育学部の国語文化教育学プログラムを担当するスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（国語文化教育学プログラム主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

#### (2) プログラムの評価

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果の評価の観点にする。教育的効果では、プログラムの実施自体における学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

#### ○評価の実施方法（授業評価との関連も記載）

本プログラムは、上記の評価の観点にしたがい、原則として入学して4年経た年次にプログラム自体の成果を評価する。第1の教育的効果に関しては、本プログラムを学習した学生の到達率（卒業要件の充足と中等「国語」教員資格の充足）による評価、及び、実施した教員グループによる総合的な評価によって、行われる。単位充足率とともに、教員の総合評価にもとづいて、本プログラムの到達水準まで各学生が達したかどうか、学生全体でどのような割合で達したのかを調べ、75%以上の達成率があるかどうかを点検する。

第2の社会的効果に関しては、学生の教員及び教育関連職への採用率による評価、採用後の「国語」教員としての成長度による評価として実施される。本プログラムを学習した学生が教員をめざした場合、いつ、どの時点で、正教員になったのか、また、教員としてどのように活躍しているかを数年おきに調べ、教員としての成長度合いを総合的に評価する。

#### ○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果はプログラム担当委員会において、プログラム内容の見直し、改善とともに、学生指導、各授業科目の効果を検討し、検討結果を下学年のプログラム運営・実施に反映させる。

## 国語文化教育学プログラムにおける学習の成果

## 評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 中等教育に関する基本的な理解ができている。	中等教育に関する理解を十分もっており、それらの理解にもとづいて中等教育の問題点と課題を指摘し、改善策を示すことができる。	中等教育に関する理解をもっており、それらの理解にもとづいて中等教育の問題点や課題を指摘することができる。	中等教育に関する基本的な理解ができている。
	(2) 児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解ができている。	児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解を十分もっており、それらの理解にもとづいて児童・青年期の教育の問題点と課題を指摘し、改善策を示すことができる。	児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解をもっており、それらの理解にもとづいて児童・青年期の教育の問題点と課題を指摘することができる。	児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解ができている。
	(3) 中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている。	中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的知識を十分もっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的知識が身に付いている。
	(4) 中等「国語」の教育内容(「ことば」とその文化)に関する基本的な知識が身に付いている。	中等「国語」の教育内容に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等「国語」の教育内容に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	中等「国語」の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている。
能力・技能	(1) 中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめ読解することができる。	中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、総合的に批判的に読解することができる。	中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、読解することができる。	中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめ読解することができる。
	(2) 中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、十分に分析・検討することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、分析・検討することができる。
	(3) 中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。	中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、批判的に吟味・検討することができる。	中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる。	中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。
	(4) 中等「国語」の教育内容の各領域(国語学・国文学・漢文学)に関する資料・情報を収集し、読解することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとに適切にまとめ、総合的に批判的に読解することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとに適切にまとめ、読解することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関する資料・情報を収集し、内容領域ごとにまとめ読解することができる。
	(5) 中等「国語」の教育内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域の研究に関して、十分に分析・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域の研究に関して、分析・検討することができる。
	(6) 中等「国語」の教育内容領域に関連した研究課題を文献や資料(史)料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関連した研究課題を文献や資料(史)料にもとづいて適切に調査し、批判的に吟味・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関連した研究課題を文献や資料(史)料にもとづいて適切に調査し、吟味・検討することができる。	中等「国語」の教育内容の各領域に関連した研究課題を文献や資料(史)料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。
	(7) 「ことば」とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。	「ことば」とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を広く深く考え、中等「国語」教育のあり方を建設的に探求することができる。	「ことば」とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を広く深く考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。	「ことば」とその文化にそくして人間と社会および両者の関係を考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。
実践的能力・技能	(1) 中等「国語」教育のカリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムを批判的に分析し、適切にデザインし、立案することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムを十分に分析し、デザインし、立案することができる。	中等「国語」教育のカリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。
	(2) 中等「国語」の教育内容や教材を分析し、開発することができる。	中等「国語」の教育内容や教材を批判的に分析し、適切に開発することができる。	中等「国語」の教育内容や教材を十分に分析し、開発することができる。	中等「国語」の教育内容や教材を分析し、開発することができる。
	(3) 中等「国語」教育の授業を分析、構想、立案し、学習指導案として作成することができる。	中等「国語」教育の授業を批判的に分析、構想・立案し、根拠を持った学習指導案として作成することができる。	中等「国語」教育の授業を十分に分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる。	中等「国語」教育の授業を分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる。
	(4) 中等教育および中等「国語」教育に関わる研究を計画、設計し、進め、その結果を分析、検討し、その意義を示すことができる。	中等教育および中等「国語」教育に関する研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を総合的に批判的に分析・検討し、その意義を的確に示すことができる。	中等教育および中等「国語」教育に関する研究を十分に計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。	中等教育および中等「国語」教育に関する研究を計画・設計し、進め、その結果を分析・検討し、その意義を示すことができる。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
総合的な力	(1) 個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究や活動を企画、立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。(研究力)	個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究・活動を開発的に企画・立案し、効果的に実行し、アクチュアルな課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。	個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究・活動を開発的に企画・立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。	個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。
	(2) コンピュータなどIT機器を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。(IT活用力)	コンピュータなどIT機器を十分に用いて、的確に基礎的な統計処理や数値表現ができる。	コンピュータなどIT機器を十分に用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。	コンピュータなどIT機器を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。
	(3) 中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすくプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。(プレゼンテーション・コミュニケーション力)	中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすく効果的にプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを深く図ることができる。	中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすく効果的にプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。	中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすくプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。
	(4) 多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育をめぐる協同的な研究・実践活動に取り組み、グループやチーム(プロジェクト的活動)の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。(社会性・協同性)	多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育をめぐる協同的な研究・実践活動に積極的に取り組み、グループやチーム(プロジェクト的活動)の一員として自らの力を十分に発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。	多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育をめぐる協同的な研究・実践活動に積極的に取り組み、グループやチーム(プロジェクト的活動)の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。	多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育をめぐる協同的な研究・実践活動に取り組み、グループやチーム(プロジェクト的活動)の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。

## 主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

国語文化教育学プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基盤作りの役割を担い、教育実践者にとっての必須の資質である基礎教養、国際化、情報化社会の中で教育を取り巻く状況を捉えていく力としての語学力、平和に関する関心、教育問題を人間の知への幅広い視野と深い理解をもって考えていくための学際的・総合的な視座などの修得を通して、中等教育「国語科」の実践を開拓し推進するために必須の能力を養成します。





国語文化教育学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	中等教育に関する基本的な理解ができています。	平和科目(○) 大学教育入門(◎) 健康スポーツ科目(○)		国語教育学概論Ⅰ(◎)				
	児童・青年期の子どもたちに関する基礎的な理解ができています。	健康スポーツ科目(○) 教養ゼミ(◎)				国語科教育評価論(○)		
	中等「国語」教育の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている。	領域科目(○)	領域科目(○)	国語教育学概論Ⅰ(◎) 領域科目(○)	国語教育学概論Ⅱ(◎) 領域科目(○)	国語教育史(○)		
	中等「国語」の教育内容(「ことば、とその文化」)に関する基本的な知識が身に付いている。	領域科目(○)	領域科目(○) 国語文化概論A(◎) 国語文化概論B(◎)	領域科目(○) 国語文化概論C(◎) 国語文化の歴史A(◎) 国語文化概論D(◎) 国語文化の歴史B(◎) 古代中世文学演習Ⅰ(△) 近世文学概説(△) 中国古典教文演習(△)	領域科目(○) 書写書道演習(○) 古代中世文学概説(△) 近世文学演習Ⅰ(△) 中国古典韻文演習(△)			
能力・技能	中等教育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめ読解することができる。	大学教育入門(◎) 平和科目(○) 外国語科目(○) 情報・データサイエンス科目(○)	国語文化基礎ゼミⅠ(◎) 国語文化基礎ゼミⅡ(◎) 平和科目(○) 外国語科目(○)		国語科学習開発論(○)			
	中等「国語」教育のカリキュラムや授業に関して、批判的に分析・検討することができる。					国語科教育方法論(○)		
	中等「国語」教育に関連した教育課題を文献や資料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)		国語教育史(○) 国語科教育評価論(○)	
	中等「国語」の教育内容の各領域(国語学・国文学・漢文学)に関する資料・情報を収集し、読解することができる。		国語文化基礎ゼミⅠ(◎) 国語文化基礎ゼミⅡ(◎) 国語文化概論A(◎) 国語文化概論B(◎)	国語文化概論C(◎) 国語文化の歴史A(◎) 国語文化概論D(◎) 国語文化の歴史B(◎) 古代中世文学演習Ⅰ(△) 近世文学概説(△) 中国古典教文演習(△)	書写書道演習(○) 古代中世文学概説(△) 近世文学演習Ⅰ(△) 中国古典韻文演習(△)			
	中等「国語」の教育内容領域の研究に関して、批判的に分析・検討することができる。			現代国語文化演習A(国語学分野)(○) 現代国語文化演習B(国文学分野)(○)	古代国語文化演習A(国語学分野)(○) 古代国語文化演習B(国文学分野)(○) 国語文化の歴史C(漢文学の歴史)(○)	国語文化の歴史D(書写書道の歴史)(○)		
	中等「国語」の教育内容領域に関連した研究課題を文献や資料(史)料にもとづいて調査し、吟味・検討することができる。					古代中世文学研究法(△) 現代国語文化研究A(国語学分野)(○) 現代国語文化研究B(国文学分野)(○) 近世文学研究法(△)	古代国語文化研究A(国語学分野)(○) 古代国語文化研究B(国文学分野)(○) 漢字漢語文化研究(○)	
「ことば、とその文化」にそくて人間と社会および両者の関係を考え、中等「国語」教育のあり方を探求することができる。	教養ゼミ(◎) 外国語科目(○)	外国語科目(○)	現代国語文化演習A(国語学分野)(○) 現代国語文化演習B(国文学分野)(○)	古代国語文化演習A(国語学分野)(○) 古代国語文化演習B(国文学分野)(○) 国語文化の歴史C(漢文学の歴史)(○)		国語文化の歴史D(書写書道の歴史)(○)		

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
実践的 能力・ 技能	中等「国語」教育のカリキュラムを分析し、デザインし、立案することができる。			国語科教材研究演習(○)				
	中等「国語」の教育内容や教材を分析し、開発することができる。			国語科教材研究演習(○)	古代中世文学研究法(△) 現代国語文化研究A(国語学分野)(○) 現代国語文化研究B(国文学分野)(○)	古代国語文化研究A(国語学分野)(○) 古代国語文化研究B(国文学分野)(○) 漢字漢語文化研究(○) 近世文学研究法(△)		
	中等「国語」教育の授業を分析、構想、立案し、学習指導案として作成することができる。			国語教育学概論Ⅱ(◎) 国語科学習開発論(○)	国語科教育方法論(○)			
	中等教育および中等「国語」教育に関わる研究を計画、設計し、進め、その結果を分析、検討し、その意義を示すことができる。				国語文化研究法(○)			
総合的 な力	個人、あるいは、グループにおいて、中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる研究や活動を企画、立案し、効果的に実行し、課題を発見、考察、探求、解決していくことができる。(研究力)	教養ゼミ(◎) 領域科目(○) 健康スポーツ科目(○)	領域科目(○) 健康スポーツ科目(○)	領域科目(○) 領域科目(○)		国語文化研究法(○)		
	コンピュータなどIT機器を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる。(IT活用力)	情報・データサイエンス科目(○)				国語文化研究法(○)		
	中等教育ならびに中等「国語」の教育・内容・実践に関わる調査や教育実施の成果を要領よく整理し、発表においてその成果、主張を分かりやすくプレゼンテーションすることによって、聞き手とのコミュニケーションを図ることができる。(プレゼンテーション・コミュニケーション力)						卒業論文ゼミ(◎)	卒業論文(◎) 教職実践演習(△)
	多くの人々と中等教育ならびに中等「国語」教育をめぐる協同的な研究・実践活動に取り組み、グループやチーム(プロジェクト的活動)の一員として自らの力を発揮して、集団的な課題発見、考察、探求、解決をおこなうことができる。(社会性・協同性)						卒業論文ゼミ(◎)	卒業論文(◎) 教職実践演習(△)
	(例) 教養科目	専門基礎	専門科目	卒業論文	(◎)必修科目	(○)選択必修科目	(△)選択科目	

## 国語文化教育学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
間瀬 茂夫	教授	7056	A302	smase@
佐々木 勇	教授	7054	C610	isasaki@
川口 隆行	教授	7051	C607	koharu12@
佐藤 大志	教授	6787	A307	tsato@
白田 理人	准教授	6789	A305	rshirata@
草野 勝	助教	6788	A306	mkusano@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））